



ゆう和【会員ご報告】2025年2月 NO.033／発行日：2025年2月／発行者：一般社団法人 兵庫県空調衛生工業協会 広報委員会／企画・編集：(株)プランニングオフィス・トライ



新年あけまして おめでとうございます

(一社)兵庫県空調衛生工業協会 会長 原田 高幸

皆様には健やかな年のはじめを迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は当協会の活動にご理解とご協力賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。本年も、兵庫県空調衛生工業協会の発展、そして設備業界の発展のため、協会会員の皆様の協力をいただきながら、頑張っ

てまいりたいと思います。
2025年1月17日、あの阪神淡路大震災から丸30年を迎えました。未曾有の大震災は私たちに深い傷を残しましたが、一方で復興への不屈の精神や、地域の絆は、より強いものとなりました。当協会も、心あらたに災害への備えを強化し、安全で安心できる社会を目指して努力していきたいと思っております。また、今後も東南海沖地震、短時間記録的豪雨災害や大型台風など地球規模での災害が危惧されています。当協会、そして空調衛生工事に携わる我々の職務の重要性を認識しながら行政と連携し、尽力してまいりたいと思います。

そして、今年は大阪・関西万博の開催、神戸空港

国際線の就航、三宮の再整備事業と、いよいよ関西の時代となりました。当協会の委員会事業も活発に行っておりますので、この勢いに乗って大きく飛躍する年にしたいと思います。

しかし、一方では、働き方改革、人材不足、資機材・人件費の高騰等、設備業界を取り巻く環境は、厳しい状況が続くと思われますが、皆様と共に一歩ずつでも前に進み、設備業界が、社会に不可欠な業界として認められるよう取り組んでいきたいと思っておりますので、これまで以上のご協力ご支援をお願いしたいと思います。

今年は巳年です。巳とは蛇ですが、「成長」「知恵」「進化」の象徴であるとも言われています。当協会が巳のように脱皮を繰り返し、しなやかに成長し続ける年になりますよう、精進してまいりたいと思います。

結びに、本年が皆様方にとって、そして業界にとっても明るい年になりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



躍動する兵庫へさらなる挑戦

兵庫県知事 齋藤元彦

新年あけましておめでとうございます。

県民の皆様のご負託をいただき、昨年11月より知事として2期目のスタートを切りました。新たな施策や改革に取り組んだ1期目の挑戦を緩めることなく、兵庫の未来を切り拓いていきます。

第1は、若者が輝く兵庫づくり。教育費の負担軽減や教育環境の充実、不登校対策の強化、不妊治療支援の充実など、若者の不安を解消し、一人ひとりが力を発揮できる環境を整えます。

第2は、誰もが活躍できる兵庫づくり。万博を機に、地場産業や農業、芸術文化など県内各地の活動現場へ国内外から多くの人々を誘うひょうごフィールドパビリオンのほか、次世代産業や有機農業の振興など、多様な活躍の場を広げます。

第3は、安全安心に暮らせる兵庫づくり。阪神・淡路大震災から30年の節目を迎える中、震災の経験と教訓を次の世代につなぐ取組を強化します。特殊詐欺被害対策などの暮らしの安全を守る取組にも力を入れます。

果敢な挑戦で新しい時代をひらく「躍動する兵庫」の実現には、県民の皆様と力を合わせたオール兵庫での取組が欠かせません。どうぞご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



新春号／表紙

CONTENTS

YUWA 2025 WINTER No.033

新年のご挨拶 2

(一社)兵庫県空調衛生工業協会 会長 原田 高幸
兵庫県知事 齋藤 元彦

新年のご挨拶 4

参議院議員 末松 信介
兵庫県議会議員 藤田 孝夫
兵庫県議会議員 越田 浩矢
兵庫県まちづくり部長 松浦 純

令和7年 新年交礼会 6

新会員だより・令和6年度表彰関係 7

株式会社川西水道機器 本社工場 見学会 8

株式会社LIXIL 兵庫支社長インタビュー 10

県庁だより 12

皮革工業技術支援センターについて 12

『週休2日制度』の取組について 13

令和6年度 協会事業 14

- 行政関係等との意見交換
- 社会貢献活動等
- 委員会による協議会事業
- 令和6年度 インターンシップ受入

令和7年 新年のご挨拶



参議院自民党議員副会長
自民党兵庫県連会長
参議院議員
末松 信介
(参議院兵庫県選挙区選出)

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。皆様のお陰様で、参議院議員として21回目の新春を迎えました。これまでのご厚情に深く感謝申し上げます。

私自身は、11月6日より参議院自民党の議員副会長に選出されました。衆議院で少数与党となる中、与党が多数を占める参議院の役割は益々高まることとなるはずですが、政権をしっかりと支え、反転攻勢に繋げるためにも、参議院の立場で引き続き力を尽くしてまいります。

さて、去年は能登半島で、元旦には地震、9月には豪雨災害が発生いたしました。今回の災害でも課題となったのが、避難所環境です。特に、避難所となる学校体育館の空調設備の設置率は18.9%とまだまだであり、兵庫県は34.2%と全国平均よりは上ですが、それでも十分ではありません。災害は、真夏や真冬を避けてはくれません。災害時には被災された方々が安心して避難生活を送れ、平時には子どもたちが安全に体育や学校行事を行える体育館にしていける必要があります。

今回、令和6年度補正予算で、通常の学校施設整備費とは別枠で、学校体育館の空調整備の加速化に779億円確保いたしました。令和17年度までに95%との目標を掲げておりますが、現在、進捗率は年間3.4%であり、達成するためには倍近い6%程度までスピードアップする必要があります。空調設備整備臨時特例交付金として、令和15年度まで重点的に行うこととしておりますが、779億円はあくまでも令和6年度分であり、毎年度十分な額を積み上げていくことに引き続き力を尽くして参ります。本年も格段のご指導を賜りたく心よりお願い申し上げます。

結びに当たり、貴協会の益々のご発展と、ご関係者皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



兵庫県議会議員
藤田 孝夫

令和7年の新春を健やかに迎えられたこととお慶びを申し上げます。平素よりの兵庫県政への寛容なご理解とご協力、また県議会へのご指導、ご支援に感謝申し上げます。何かと話題の兵庫県政ですが、政局の行方を考えるのはもちろん重要ですが、日々の県民生活を最優先することを忘れてはなりません。医療や福祉、経済や雇用、インフラ整備や防災、農畜林漁業や環境、教育や生きがいなどそれぞれ具体的な目標達成の事業実施に向けて、優先順位をつけて最善を尽くせるよう政策議論を行っていきける一年にしたいと強く願っています。

国際的な国力の評価指標である自国通貨(円)の価格は対ドルベースで約1/2に下落して久しいのですが、昨年度兵庫県下の法人税収増を牽引したのも輸出関連の重厚長大・機械製造輸出でした。一方で国民消費は低迷し生活を支えるエネルギー、食糧をはじめとする輸入物価の高騰は止まりません。収益所得の再分配の必要性がこれほど解りやすく国民や県民に求められている状況は今まであったでしょうか？金利政策や国内投資など政治は大きな転換局面かもしれません。

世界的に連動する金融とマネー、地球規模の大規模地震や気候異変。不安定要素が絡み合い将来の安定が見通しにくい状況が続いています。しかし既成概念を打破するような技術革新や新たな生活提案に繋がる新価値観はこんな時こそ生み出されます。

国県はもちろん、関連金融機関、研究機関、商工会議所・商工会、市町などの協力を得ながら企業支援体制を整え、経営革新や発展的統合などで新たな経営環境・市場環境を創造できる中小企業を目指す皆さんを全力で支援して参ります。

この激変期を变革のチャンスと捉え、貴協会をはじめ関係者の皆さんにとりましてチャレンジと飛躍の年となりますことをご祈念申しあげ年頭の挨拶とさせていただきます。



兵庫県議会議員
越田 浩矢

新年あけましておめでとうございます。兵庫県空調衛生工業協会の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

少子高齢化が進み、超高齢社会を見据えた変化への対応が求められています。あるゆる業界で人手不足が深刻化しており、設備業界でも人材確保に苦慮されているとお声を伺っています。働きやすく魅力ある職場環境の整備とともに、賃金アップが人材確保のポイントとなります。公明党として国会議員と連携し公共工事の労務単価のアップに取り組んでおり、現場の実態を踏まえた改善に向けて、さらに努めて参ります。

昨今のAI技術の急速な進展による生成AIの登場は、人類の歴史における分岐点を迎えたとの指摘があります。空調衛生工業協会の皆様にとっては、現場での対応、技術が勝負であります。AI技術による社会の大きな変化に適応しながら、積極的にAIの導入を図っていただくことも重要です。そのような取り組みに対する行政の支援にも尽力して参ります。

今年は巳年、蛇の年です。蛇は古くから再生や変容の象徴とされており、私も蛇のように柔軟で粘り強く、新しいことに挑戦したいと決意しています。また、巳年は「再生と誕生」の年とも言われ、これまで蓄えてきた力を発揮する絶好の機会です。阪神淡路大震災から30年目を迎える本年、大阪関西万博の開催や神戸空港の国際チャーター便就航等、新しい時代のスタートの年に、空調衛生工業協会の皆さまが大きく飛躍される1年となることを祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。



兵庫県まちづくり部長
松浦 純

謹んで新年のお慶びを申し上げます。平素は、兵庫県のまちづくり行政の推進にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

近年、大規模地震や激甚化する災害発生リスクが多様化し、県民の災害意識が高まっています。今年は、阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えます。被災県として、震災の経験と教訓を次世代へ繋げながら、安全・安心な社会づくりへ貢献していきます。

本県では、「まちづくり基本方針」に基づき、「安全・安心」「魅力・挑戦」「持続・循環」の3つのテーマで、まちづくり施策を総合的に展開していきます。

〈安全・安心〉

- 一、能登半島地震で顕在化した課題等を踏まえ、更なる住宅や建築物の耐震化を推進するとともに、今年4月から盛土規制法に基づく規制区域の指定及び運用を開始します。
- 二、高齢者等が安心して移動できるよう、鉄道駅舎のエレベーター設置など、公共交通のバリアフリー化を促進します。
- 三、県営住宅の建替を効率的・効果的に進めるため、初のPFI手法による建替事業を県営青木高層・鉄筋住宅において実施します。

〈魅力・挑戦〉

- 一、安心して子育てできる住宅・住環境の確保に向けて、県営住宅と民間住宅の両面から支援を実施します。
- 二、昨年、令和7年度末を目途に加西市域の市街化区域と市街化調整区域の区分を廃止する方針を定めました。今後、都市計画区域マスタープランの見直しと併せて市町と連携しながら進めます。
- 三、幅広い関係者の意見を踏まえながら県立都市公園の魅力向上に取り組みます。また、3月20日から「花みどりフェア」を開催します。

〈持続・循環〉

- 一、空家活用特区の指定を推進するとともに、民間事業者と連携した空き家再生の支援に取り組みます。
- 二、週休2日制の確保を着実に実施するとともに、県立高校の空調設備工事などにも力を入れて取り組みます。

今後も、人と地域がいきいきと輝く「躍動する兵庫」の実現を目指してまいりますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和7年1月20日、来賓、会員併せて207名が一堂に会し、盛大に新年交礼会を開催しました。

原田会長のご挨拶から始まり、林総務委員の司会により進行するなか、服部兵庫県副知事、協会顧問である末松参議院議員、藤田県議会議員、越田県議会議員からご祝辞をいただきました。また、チャリティ親睦ゴルフ大会で募った寄付を、兵庫県青少年本部に贈呈し、会長である齋藤兵庫県知事から感謝状をいただいたことを報告しました。そして、兵庫県まちづくり部松浦部長の乾杯のご発声により、ご来賓と会員、また、会員同士の和やかな交流が繰り上げられました。

新会員紹介の後、昨年に引き続き、TOTO株式会社神戸支店、ダイキンHVACソリューション近畿株式会社、津下ダイヤモンド工業株式会社の賛助会員3社による企業PRタイムを設けました。

最後に、高谷副会長の掛け声による三本締めにて賑やかな宴が閉会いたしました。

令和7年 新年交礼会

令和7年1月20日(月) 17時～19時
ホテルクラウンパレス神戸



❖ 主なご来賓等 (順不同・敬称略)

服部 洋平 兵庫県副知事
末松 信介 参議院議員(顧問)
藤田 孝夫 兵庫県議会議員(顧問)
越田 浩矢 兵庫県議会議員(顧問)
松浦 純 兵庫県まちづくり部長
小池 敏之 兵庫県まちづくり部設備課長
奥田 孝一 兵庫県立ものづくり大学校長
上田 賢一 公益財団法人兵庫県青少年本部理事長
那須 大輔 国土交通省近畿地方整備局設備技術対策官
岡崎 裕一 神戸市建築住宅局担当局長
瀬戸 良典 神戸市建築住宅局部長
北浦 好志 淡路市理事

服部兵庫県副知事 ご祝辞



1月17日、阪神淡路大震災から30年の節目を迎え、天皇皇后両陛下ご臨席のもと、1.17のつどいを執り行うことができました。私はHAT神戸の会場で同時中継の映像を通して、陛下のお言葉を拝聴することができました。犠牲になられた多くの方々に対する追悼の言葉と、思いのこもった温かい言葉に大変感動いたしました。会員企業の皆様には、30年という過程の中で様々な場面でご尽力、ご貢献いただいたと思います。改めまして感謝を申し上げます。県といたしましても、復旧復興の過程を通じて得た貴重な経験と教訓を次の世代につなげ、次なる災害への備えにしっかりと取り組むという決意を新たにいたしました。

2025年度は、県政といたしましても兵庫の未来に着実に推進してまいります。建築設備関係では県立学校の環境整備として体育館や選択教室の空調設備、施設の老朽化対策に、令和5年度からの6年総額で300億円という規模で整備を進めております。また、東播磨地域や但馬地域における特別支援学校の新設や改築工事を進めてまいります。これから顧問の先生方のお力を賜りながらしっかりと当初予算の確保に努め、喫緊の課題となっております労働対策に努めながら、工事の受発注に努めてまいります。そして、人材確保、働き方改革など皆様方が直面する諸々の課題に対しても真摯に向き合っております。



新年の抱負

当日で出席いただいた
賛助会員8名の方に伺いました。



タカラ通商株式会社
神戸営業所
所長 樋口 敦久

今年、弊社はおかげさまで65周年。これからも人が水と関わっていく為のサポーターとして材料提供して参りますので宜しくお願い致します。



ホーコス株式会社
神戸営業所
係長 臂(ひじ) 卓弥

今年は巳年。グリース阻集器のみのイメージから脱皮しフード・SUS加工品等他製品も拡販に精進致します。



イングロ株式会社
神戸営業所
所長 清水 健正

新たな挑戦と成長を目指し、社員一丸となって地域社会に貢献できる企業を目指します。



株式会社橋本商会
代表取締役 橋本 直明

流行りの働き方改革が提唱されている中、皆様の利便性にお役立ち出来る様に精一杯頑張っております。



株式会社マニックス
営業統括本部統括部長
岩崎 正英

地域密着でニーズに合わせた商材の提案、新しい商材の提案を実施し設備・空調両分野にて会員様のサポートに尽力いたします！



積水化学工業株式会社
管材建築グループ
大原 慎太郎

空調衛生事業の発展に貢献できるように本年も尽力いたします。



株式会社ベルテクノ
大阪支店
課長 佐伯 彰彦

蛇の道は蛇が知る 兵庫県の設備業界に精通した皆様とともに、成長、発展していくメーカーを目指します。



渡辺パイプ株式会社
兵庫支店
支店長 高橋 英司

生活インフラをつなぐパイプ役として、皆さまのお役に立てるよう、組織一丸となって取り組んでまいります。



新会員だより



【会社名】株式会社 郁栄
【代表】中野 郁吾
【所在地】〒662-0084
兵庫県西宮市樋之池町2番15号
スクエア樋之池201号
【TEL】0798-81-5028
【Mail】info@ikuei-inc.jp

2010年に設立し、給排水衛生設備工事、空調設備工事を中心とした各種管工事、また機械器具設置工事の施工を行っております。丁寧かつ柔軟な対応を心掛け、安全や品質向上のため弛まぬ取り組みを続けてまいります。



【会社名】株式会社 ケイテック
【代表】川合 篤
【所在地】〒651-2113
兵庫県神戸市西区
伊川谷町有瀬24番地の3
【TEL】078-203-2480
【Mail】info@ktec2011.com

兵庫県をメインに大阪から京都間の空調・衛生・消火・工場プラントの管工事施工を行う会社です。施工会社として信頼される工事を心掛けてまいります。



【会社名】阪神エヤコン株式会社
【代表】西山 美一
【所在地】〒662-0942
兵庫県西宮市浜町 11-4
【TEL】0798-35-8519
【Mail】hanshin1@vega.ocn.ne.jp

弊社はダイキン空調機特工店として民間の事業所、病院、工場や公共施設の空調・換気工事を主にを行っています。親切・安全・丁寧をモットーにお客様に快適で豊かな生活を提供できる会社を目指しています。



株式会社川西水道機器 本社工場

2024年9月6日(金) 参加者:7名
所在地/香川県綾歌郡綾川町陶7188-1

広報委員会は「株式会社川西水道機器 本社工場」を訪問し、鑄造から組立までの全ての工程を見学させていただきました。同社の70余年にわたる沿革をご説明いただき、製品開発・製造に対する姿勢に大きな気づきを得ることができました。また、国内外における社会貢献への熱い思いを感じることもできました。

■ 製造業としての始まり

1952年創業、今年7月で72周年を迎える株式会社川西水道機器は、香川県に本社・生産工場を置く管継手専門メーカーです。創業者である現会長の祖父のイニシャルは、現在でも同社のロゴとして使用されています。製造業としての始まりは、高松市内で水道関係の方々からのいろいろな要望に基づき試行錯誤していく過程で、分解せずに接続可能なユニオン継手を発明し、SKジョイントとして開発、製造したことでした。

1995年に高松市から綾川町に鑄造工場を移転後、2000年に後工程を全て移転し、技術開発、金型の製作、鑄造、機械加工、組み立て、出荷などを一つの工場の敷地内に収めるようになりました。

■ 管継手分野に特化・一貫したものづくり体制へのこだわり

自社内で製品開発・設計から製造・販売に至るまでトータルで行う一貫したものづくり体制は、同社の強みとなっています。このこだわりによって生まれた社内の連携や顧客の声をフィードバックすることで、技術レベル・品質レベル・サービスレベルの向上を図り、顧客ニーズを満たす製品づくりを実現してきました。会長は次のように語っています。「当社は作ったものが同一敷地内で流れていくので、商品開発、生産技術、製造設備の改良を同時に進めていくことが可能です。そして、技術者も育つ環境にあります。改良していく過程で気づかなかったことに気づき、結果的に目的に向かって進むことができるのです。」



小径口から大径口まで幅広いラインナップ

■ 主要な製品と技術の進化

「より早く、楽に取り付けができるものを」というお客様の声に応え、管をそのまま受け口へ突っ込み、小さな力で締め付けできることを設計コンセプトとして製品開発を行い、メカニカル継手で分解不要タイプを発売したのは、国内で同社が初めてでした。また、継手受け口・パッキンを接続管よりも大きくすることで、取り付け作業を容易にしました。そして、鋳



物製メカニカル継手の分野では日本水道協会の検査実績で73.5%と、トップシェアを誇るようになりました。また、口径や形状においても、あらゆる管に対応できるアイテム数を取り揃えています。

さらに、外部離脱防止金具『ストップリング』を開発し、管を伸縮してつなぐ構造を可能にしました。それが、SK-KAWANISHIブランド商品の最大の特徴となっています。そして、『ストップリング』によるポリエチレン管接続方式により、インコアを打ち込むという施工労力の省力化と安全性の両立を実現しました。同社は、産学官民連携を通じて地元経済・地域活性化に貢献するなど、業界を牽引し続けています。



『ストップリング』により
水圧による管離脱を防止



『ストップリング』による
ポリエチレン管接続方式

■ 災害時協力協定の締結

近年、国内のさまざまな地域で地震・豪雨・洪水等の自然災害が発生しております。災害発生時には水道管の破損や漏水が発生する可能性があります。水道資材が同時多発的に必要とされることが想定されます。

そこで、同社では災害時の迅速な復旧活動に備え、2014年から香川県内および埼玉県、宮崎県、愛知県と多くの事業体と災害協定を締結し、災害時に迅速な支援活動ができるよう品質とサービス向上に努めています。



被災地の応急仮設管路をつなぐ

日本の「管継手」がケニアの水資源を守る

■ ケニアが抱える課題

ケニアは国土の約85%が乾燥地もしくは半乾燥地であることから、慢性的な水不足かつ安全な水へのアクセス率が低い現状です。ケニア政府は、2030年までに全国民に安全な水へのアクセスを提供するという大きな目標を掲げているなかで、「水の安定供給」は目標達成の必要条件に含まれています。今後の都市化や人口増加を踏まえて、都市上下水道サービスの強化、不十分な水衛生サービスの改善が喫緊の課題となっています。

加えて、ケニアでは淡水資源における取水可能な水量が限られているうえに、せっかく取水しても、その多くが配水管からの漏水や違法な盗水などの無収水になってしまうという課題も抱えています。これらの課題克服を支援してきたJICAとの連携により、株式会社川西水道機器は技術協力という形で立ち上がりました。

■ 高品質・施工性の高い管継手を使った水課題への貢献

国内需要の先細りへの対応として、新たな市場開拓を模索していた同社は、海外進出の展示会でアフリカの上水道技術者から漏水問題をヒアリングしたことをきっかけに、2018年からアフリカ進出計画の策定に向けて自社調査を開始しました。そして、ビジネスの展開先として選定したのがケニアでした。2019年度のJICA中小企業・SDGs支援事業に応募し、同国への提案が採択されたことで、同国への管継手の普及に係る本格的な調査を開始しました。

2019年12月より基礎調査を行い、現地の水道事業における提案製品のニーズ調査、現地の配管材市場のトレンドや管継手の市場規模・導入の可能性に係る調査を実施しました。その後、2021年度に

応募・採択された案件化調査では、ビジネスモデル案のさらなるブラッシュアップを行いました。その間、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けて調査計画を一部変更するなど、事業スピードを落とさないように工夫をした結果、現地が直面する配管における課題をヒアリングでき、提案製品の有する高い施工性、豊富なラインナップ、高い安全性といった優位性を現地関係者にPRしつつ、現地に合った仕様への開発に向けた検討を開始することができました。

■ 同社とケニアの相互作用

現在、同社はケニア政府と現地企業との連携を深め、現地法人を設立し、本格的な事業展開を開始しています。技術移転と人材育成の面では、同社の持つ高度な技術をケニアの水道事業者や技術者に積極的に移転し、製品の設置や保守、メンテナンスに関する研修を行うことで、現地の技術力向上に貢献しています。さらに、両者の文化交流も活発に行われており、ケニア人社員の日本への研修派遣などを行うことで互いの文化理解を深めています。

このように、同社のケニア事業は、強固な相互信頼関係を築き上げてきました。単なる製品販売に留まらず、ケニアの持続可能な開発に寄与しています。今後、ケニア政府が掲げる水供給目標の実現に向けて、さらに同社の役割は重要になると考えられます。同社は既存の強みを生かしつつ、現地ニーズに合わせた製品やサービスの提供を一層強化していく必要があるでしょう。同時に、競争の激化やインフラ投資の拡大といった課題への対応も求められるはずです。この事例は、日本企業の海外展開における重要なモデルケースとなっています。互いにwin-winの関係性を構築していくことが重要な戦略となるでしょう。

出典：独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 他



提案製品である管継手の紹介



地方の水道事業者とともに



2024年11月
ナイロビに現地法人を設立

株式会社川西水道機器 見学風景およびメッセージ



衛生設備の関係者内では「SKジョイント」でおなじみの香川県にある川西水道機器本社工場へお伺いしました。15棟もの工場及び建物があり、素晴らしい品質管理や機械化での業務の効率化、各種工程見どころ満載で、興味津々見ているうちにあっという間に終了しました。

製品説明のパートでは、知らなかった範囲の異種管接続等の特性や、普段あまり扱わない大口径継手等の種類にも驚かされました。並々ならぬ企業努力を感じることができ、また、同一敷地内ですべての工程が行われることに、同社の強みを感じることができました。

川西水道機器様の企業としての素晴らしさを実感する見学会となりました。

山口 智裕



工場見学に参加させていただき、川西水道機器、川西社長ならびに社員の皆様の「つなぐ」という技術や心に触れさせていただきました。

管、水、暮らし、技術、想い、感動、未来。このすべてをつなぎ、社会に貢献されている会社であることに感銘を受けました。JICA中小企業・SDGs支援事業に参加するにあたり、様々な困難や危険を乗り越え、日本とは真逆の衛生環境のケニアでの水課題解決に貢献する「つなぐ」。この過程をユーモアたっぷりに説明してくださった川西社長のお話は、ぜひ皆さんにも直接聞いてほしいと思いました。きっと皆さんも川西社長に魅了されることでしょう。素晴らしいお話でした。

今回の工場見学を終え、日々、管をつなぐことにより未来をつないでいる、私たちもその一員、と改めて感じさせていただきました。

永尾 尚子

LIXIL 新たな暮らしの価値を追求し続け、 生まれたイノベーションの軌跡とこれから



株式会社LIXIL（以下、LIXIL）の水まわり・タイル事業は、2024年に100周年を迎えました。六古窯の街として知られる愛知県常滑で土・水・火と向き合い、フランク・ロイド・ライトによる帝国ホテル 二代目本館 通称「ライト館」の建築において、装飾に富んだ煉瓦やテラコッタタイルを製作。1924年、その技術を受け継ぐ形で伊奈製陶株式会社（後のINAX、現LIXIL）は設立されました。以来、新たな暮らしの価値を追求し続け、その後も数々のイノベーションを創出してきました。

■ タイル事業で培った技術力と製品開発力の変遷

先進的な製造技術の導入と、消費者ニーズに合った製品開発に尽力したことが、同社を短期間で日本有数のタイルメーカーに押し上げました。戦前期には、高級感のあるデザインと優れた品質を武器に、主力製品の洋風タイルと和風タイルの販売を伸ばしていきました。特に、多様な表情を持つ釉薬技術の開発は同社の強みとなっていました。

その後、第二次世界大戦という試練の時期を経て、生産体制の抜本的な強化に取り組み、工場の新設や設備の近代化、さらには原料の自給体制の確立などにより、大量生産体制を整備していきました。そして、衛生陶器生産を開始したのも、この時期でした。また、高度経済成長期における住宅建設ブームを機に国内トップメーカーの地位を確立し、以降の躍進への基盤を築いていきました。

■ さまざまな試練と新たな事業分野への挑戦

バブル崩壊後、国内の建設需要が冷え込み、同社の業績も低迷を余儀なくされる状況のなかで、同社は抜本的な経営改革に乗り出しました。まず、生産拠点の再編や人員削減を断行し、コストの大幅な削減に努めました。同時に、付加価値の高い製品開発や、きめ細かなマーケティング活動に力を入れていきました。

また、同社はタイル事業の枠を超えて、新たな事業分野への進出にも取り組みました。キッチンやバスルームなどの水まわり製品や、エクステリア製品の開発・販売を強化し、事業の多角化を推し進めました。これらの新規事業は、従来のタイル事業と相互に補完し合い、同社の事業基盤の安定化に寄与しました。

さらに、環境対応と省エネ性能の向上に注力した製品は、顧客ニーズの変化にも合致し、好評を博しました。一方で、グローバル展開にも力を入れ、本格的な海外市場の開拓を目指しました。アジア、欧州、北米などの有望市場に積極的に進出し、現地での生産や販売拠点の設立を進めています。これにより、海外売上高の比率を着実に高めていき、LIXILの収益源の多様化を実現しました。

■ 持続的な成長に向けて

100年目を迎える今、LIXILは人工知能やIoT、ロボット技術など先進デジタル技術の活用を通じて、生産性の向上や製品の高機能化を実現しています。また、顧客ニーズの変化に迅速に対応できる体制の構築にも注力しており、マーケティングの強化やデザイナーとの密接な連携により、トレンドを先取りした製品開発を行っています。さらに、オーダーメイドやリフォーム向けのカスタマイズサービスの充実にも取り組み、個々の顧客ニーズに即したソリューションの提供を目指しています。

一方、「世界中の誰もが願う、豊かで快適な住まいの実現」というパーパス（存在意義）を実現するために、意思決定を行う際の指針をLIXIL Behaviors（3つの行動）として定めています。長期的な成長に向けて取り組むべき優先課題を明確化し、同時に、企業として利益を追求するだけでなく社会に貢献できるように、事業活動を通じて環境や社会課題の解決に取り組んでいます。



LIXILが取り組む重要課題

また、同社がその存在意義の達成を目指すことは、急速に変化する世界において、日々の暮らしを支える製品を生み出し、新しい働き方を推進する原動力となっています。未来を見据えた活動を通じて、暮らしと社会にインパクト（良い影響）を生み出すインパクト戦略を推進しています。

インパクト戦略では、世界的な社会課題のうち緊急性が高く、また同社の専門性を活かして大きなインパクトを生み出すことができる「グローバルな衛生課題の解決」「水の保全と環境保護」「多様性の尊重」を3つの優先取り組み分野に定めています。現在、そして未来を見据え、従業員やパートナー、さらには地域社会など様々なステークホルダーと協働して取り組みを進めています。

同社は様々な形で社会的責任を果たしつつ、持続的な成長を実現中です。そして、次の100年に向けて、新たな価値創造に挑戦し続けていくことでしょう。

LIXIL 兵庫支社長 interview



株式会社LIXIL
LWT兵庫支社 支社長 小山 純平

PROFILE
千葉県出身。トステム入社後、北海道で26年間、営業職に従事。水まわりの担当を経て、2019年に単身で大阪に着任後、神戸へ。

（写真背景）
障がいのある方をデザイナーとして採用しているヘラルボニー社との協力で完成した「エコカラットプラス デザインパネル」。マグネットで簡単に施工可能。

Q 永尾：国内外それぞれで社会貢献をされていますが、そのなかで、ユニセフを通じた社会貢献について教えてください。

A 支社長：LIXILは2年前に「インパクト戦略」を更新し、製品の販売などの事業そのものが日々の暮らしや社会にインパクト（良い影響）を与えられるよう、取り組みをさらに加速させています。その一つが、ユニセフを通じて行っている「みんなにキレイをプロジェクト」です。プロジェクトに共感いただいた方にトイレや水栓などの対象商品をご購入いただき、その売上の一部をグローバルな衛生課題の解決のために寄付するというものです。寄付されたお金は、ケニアにおいて、安全で衛生的なトイレの設置、トイレの設置に必要な職業訓練、衛生環境の重要性に関する理解促進などに使用されています。

2022年度から3回目の実施となり、今年度は寄付金額上限である2,000万円の寄付が決定しました。実際に設置した学校の生徒さんからのビデオレターや、現地赴任者に感謝状をいただくなど、社員にとっても会社に誇りを持てる部分になっているように思います。

Q 下井：企業の統合や合併などにより巨大な企業になるなかで、現場レベルで感じる課題について教えてください。

A 支社長：もともとINAXとトステムは経営統合しており、それぞれの企業体の形を残したまま、住生活グループという持ち株会社の形をとっていました。2011年にトステム、INAX、サンウエーブ工業、新日



LIXIL 神戸ショールーム 水まわりから、内装建材、玄関、サッシ、外壁まで充実した商品を取り揃えています。



〒650-0044 兵庫県神戸市中央区東川崎町 1-2-2 ハウジングデザインセンター神戸 B1F

2024年 新商品



RICHELLE
様々な工夫で
使い勝手を究めたキッチン



SATIS X
タンクをなくしたデザインや
先進の機能



マジェスティックスレート
内装壁機能建材
「エコカラットプラス」



Greentap
蛇口から冷たい
ミネラル入り浄水を提供



J フィット
おそうじ楽ちんの
キャビネット付トイレ



Lidea
ライフスタイルにフィットした
バスルーム

皮革工業技術支援センターについて

兵庫県まちづくり部設備課 機械設備班 副主任 河端 唯斗

● 皮革工業技術支援センターについて

『皮革工業技術支援センター』は、中小企業を支える、ものづくり技術支援機関です。兵庫県では、揖保川や市川といった豊富な水資源を背景に、姫路市やたつの市を中心に、革づくりが盛んとなり、現在では国内最大規模の皮革産地として知られています。

本センターは、姫路市に位置し、県内企業の技術支援を行うとともに戦略的な研究開発や技術の高度化を支援してきましたが、建設から45年が経過し、施設の老朽化が進んでいたことから、施設の機能向上を図り引き続き長く安全に利用できるように、このたび長寿命化改修を実施しました。

● 機械設備工事の特徴

次の三つの柱をコンセプトに施設を改修しています。

1 環境に配慮した施設づくり

●換気設備について、省エネルギーに配慮し、排気を含む熱を回収して室内の温度変化を抑える全熱交換型換気扇を実習室等に設置しました。

●給水方式について、高架水槽方式から加圧給水方式に変更し、給水用途をヒアリングしたうえで給水設備全体のダウンサイジング化により建物の耐震性向上を図るとともに、メンテナンス費用を削減しました。

●排水について、污水管、雑排水管、重金属系排水管、有機系排水管の4系統に分けて分流しているため、色による系統表示をし、誤接続がないように注意しました。

2 利用者にやさしい施設づくり

●トイレの洋式便器に温水洗浄暖房便座を設置、また、多目的トイレにオストメイト対応トイレバックを設置し、研修施設等の外部利用者の

ためユニバーサル化に配慮しました。

●革のなめし工程で発生する特有の臭気の影響により、センター内の臭気対策が課題となっていました。今回、天井埋込型のオゾン発生装置[オゾン発生方式:紫外線ランプ 風量:12m³/h]を設置し室内環境を改善しました。

●既設中央熱源による空調が機能していなかったため、撤去し、パッケージエアコンによる個別空調化を実施しました。

3 研究機関機能に対する配慮

●日本産業規格[JIS K 6550-1994]で定められている「革試験方法」を、一定の条件下で試験できる様に、恒温恒湿室用パッケージエアコンを設置しています。同室の空調設備を更新するにあたり、冷媒の油回収運転による停止時間が少なくなるような設備としました。

●建設当時から試験内容等も大きく様変わりしていたため、実験に必要な設備の要否について詳細にヒアリングし、不必要となった設備の撤去を実施しました。



【建物全景】



【機械室 加圧給水ポンプ、受水槽】



【研修棟 オストメイト、多目的トイレ】



【研究棟 ドラフトチャンバー、排気スクラバー】



【研究棟 空調機械室(空調機・加湿器)、恒温恒湿室内】



● おわりに

施工者の皆様におかれましては、創意工夫と協調的な対応で円滑に施工していただき、無事に完成を迎えることができました。また、施設管理者側からの様々な要望に対しても真摯に応えてくださいました。

ご尽力いただきました施工者の皆様をはじめ、ご協力いただいた全ての関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

私自身、これまで本格的な皮革製品に触れる機会がありませんでしたが、本工事のご縁をきっかけに兵庫県産の革製品を手にとってみました。兵庫県産の革製品がより多くの方々に広まること、そして、『皮革工業技術支援センター』及び兵庫県の誇りである伝統工芸の益々の発展を深く祈願いたします。

『週休2日制度』の取組について

兵庫県まちづくり部設備課 設備技術・企画班 班長 公文 浩之

1 背景・目的

働き方改革により令和6年4月から建設業界にも時間外労働の上限規制が適用され、建設労働者の長時間労働の是正や健康確保、ワークライフバランスの改善、また、将来の担い手確保のため、より働きやすい職場環境づくりの取組として週休2日の導入が求められています。

このため、公共工事発注者は、建設業における働きやすい職場環境づくりの推進・実現に向けて、これら建設業界の取組を率先して支援していく必要があります。本県まちづくり部においても、週休2日の確保を前提とした建設工事の発注を進めています。

2 これまでの取組と現在の取組方針

(1) R3～5年度までの取組

●『試行的週休2日制度(現場閉所※¹なし)』を実施
適正工期を確保した上で、週休日を土・日曜日に限定することなく、工事に関わる技術者が個人単位で、4週8休の休暇取得を目標としています。

●取組状況
R3年度から10工事で実施しており、既に5工事で完成していますが一部の工事で未達成ものがありました。また、残りの5工事で現在取組中です。

(2) R6年度以降の取組

①『週休2日制度(現場閉所・現場休息※¹)』を新築、改修(②の場合を除く。)及び解体工事で実施しています。
②使用中の施設(学校、庁舎等)の改修工事で、施設の利用状況、工事の内容、工期の制約その他の事情から、『週休2日制度(現場閉所・現場休息)』の実施が困難と認められる場合※²は、現場単位で『交替制週休2日制度※³』として実施しています。

※1.現場閉所(現場休息)とは、巡回パトロールや保守点検等を除き、現場事務所での作業を含めて1日を通して現場が閉所された状態のこと。(分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて1日を通して現場作業がない状態のこと。)

※2.建築・電気・機械工事のいずれかが以下の作業内容を含む場合
(a)居室内部での作業が主となるもの(例:照明LED化、空調改修)
(b)長期休暇期間などに集中して作業が必要なもの(例:便所改修)
(c)居室環境維持のため、作業時期が限定されるもの(例:電気室や機械室の改修)
(d)入居者との詳細な調整が必要となるもの(例:県営住宅の住戸内改修)
(e)上記のほか、作業による騒音・振動・粉塵等が居室又は施設運営に大きな影響を与えるもの

※3.交替制週休2日制度
(a)R3年度から運用してきた「試行的週休2日制度(現場閉所なし)」の名称を「交替制週休2日制度」に改めています。
(b)週休2日達成による費用的なインセンティブ(労務単価の補正)は設けていないものの、発注者として原則、過去の実績に基づき工期を2割増しするなど、週休2日に対応した適正な工期設定を行うことで、建設労働者の長時間労働の是正や週休2日の推進などにつなげています。

3 取組状況のイメージ

	R3～R5	R6以降
① 新築、改修(②を除く)、解体		週休2日制度 (現場閉所・現場休息)
② 改修(週休2日制度(現場閉所・現場休息)の実施困難な場合)		交替制週休2日制度 (現場閉所なし)
R3～R5における新築(10工事)	試行的週休2日制度 (現場閉所なし)	

4 『交替制週休2日制度』と『週休2日制度(現場閉所・現場休息)』の比較

	交替制週休2日制度 (現場閉所なし)	週休2日制度 (現場閉所・現場休息)
定 義	4週8休以上の <u>休暇取得(個人単位)</u>	4週8休以上の <u>現場閉所(現場休息)</u>
対象者	<u>受注者(元請会社)の監理・主任技術者及び技術者</u> (対象者以外は、週休2日取得に努めることとする)	<u>全工事関係者</u> (現場代理人、監理・主任技術者、技術者及び作業従事者等)
積算方法等	<u>補正なし(労務単価は残業規制対応)</u>	<u>補正あり(労務単価は残業規制対応)</u>
工事成績評価	<u>休暇取得の達成状況に応じて加点</u>	<u>現場閉所・現場休息の達成状況に応じて加点</u>
告知方法	<u>設計書に対象工事であることを記載</u>	<u>入札公告及び設計書に対象工事であることを記載</u>

※兵庫県ホームページにまちづくり部営繕課・設備課の発注工事における『週休2日制度(現場閉所・現場休息)』及び『交替制週休2日制度』の実施要領等を掲載しています。
(URL)https://web.pref.hyogo.lg.jp/ks30/syukyuhutuka.html

5 おわりに

今年度からまちづくり部では原則、週休2日を前提とした工期設定をして発注を行っています。

工程管理においては、工事の着手に先立ち、施工上密接に関連する工事の総合試運転調整や官公署の検査等の期間を適切に見込んだ「概成工期」を関係業者間で協議のうえ工期終盤に作業が集中しないよう実施工程表への明記をお願いしたいと思います。

については、県担当者間においても共通認識のうえでその工程調整に関わることで、建設労働者の長時間労働の是正や将来の担い手確保のため、より働きやすい職場環境づくりに寄与していきたいと考えていますので今後ともよろしくお願いいたします。

令和6年度協会事業

1.行政関係等との意見交換

兵庫県との行政懇談会

令和6年9月11日(水)

近都まちづくり部次長、小池設備課長、黒田契約管理課長をはじめとする兵庫県幹部職員と兵庫県空調衛生工業協会及び兵庫県電業協会の会長、副会長、各委員会委員長などによる行政懇談会が開催されました。入札制度の見直しや公共工事設計労務単価、働き方改革など、当面する6つの課題について協議や意見交換を行いました。



自由民主党政政策要望・意見交換会

令和6年9月5日(木)

原田会長、高谷副会長が出席し、令和7年度政府及び兵庫県予算編成に対する最重要要望として、物価情勢を考慮した設備予算の確保や適切な工期の設定などについて協議し、意見交換を行いました。

兵庫県建設産業団体連合会意見交換会

令和6年11月18日(月)

兵庫県土木部・まちづくり部との意見交換会が開催され、原田会長(連合会副会長)、高谷副会長(連合会理事)が出席し、公共事業予算の確保や働き方改革推進のための支援などの要望を行いました。

2.委員会による協議会事業

総務委員会

▶本誌P6-7参照

新年交礼会 令和7年1月20日(月) ホテルクラウンパレス神戸で行いました。

技術環境委員会

技術環境委員会研修

令和6年10月8日(火)

賛助会員2社の取組を紹介する研修会を労働安全衛生大会に引き続き開催しました。

○オイルタンクの種類及びSFタンク製造工程について
(株)ベルテクノ大阪支店支店長代理 松本 利之 氏
(株)サンテック取締役営業部長 上島 隆志 氏
○モータにインバータを内蔵したIVMモータ・ポンプについて
(株)荏原製作所モータ事業ビジネスユニット部 若松 裕史 氏



先進事例施設見学会

令和7年3月6日(木)

瀬尾高圧工業株式会社

幅広い鋼種の原材料から鍛造、熱処理、機械加工までの一貫製造による生産管理体制と確実な品質管理体制によって、信頼性の高い製品を製造

共栄ゴルフ工業株式会社

国産アイアンヘッドの鍛造工程から表面処理工程までを一貫生産



経営開発安全委員会

労働安全衛生大会

令和6年10月8日(火)

会員91名(正会員77名、賛助会員14名)の参加を得て、神戸市中央区文化センターで開催しました。兵庫県小池設備課長の来賓祝辞、兵庫労働局西脇地方産業安全専門官による労働安全衛生講話の後、参加者全員で労働安全・労働衛生スローガンを唱和して、職場の安全を誓いました。

<労働安全スローガン> 危険に気付くあなたの目 そして摘み取る危険の芽
みんなで築く職場の安全
<労働衛生スローガン> 推してます みんな笑顔の 健康職場



チャリティ親睦ゴルフ大会

令和6年11月7日(木)

14組56名(正会員41名、賛助会員15名)が参加し、高室池ゴルフ倶楽部で開催し、プレーを通じて相互の親睦を図りました。また、参加者には一口2,000円のチャリティ募金をお願いしました。



建設労働者確保育成研修会

令和7年1月27日(月)

会員77名(正会員72名、賛助会員5名)の参加を得て、神戸市中央区文化センターで開催しました。暴力団等の不当要求行為への対応や若年労働者の確保、特に外国人労働者雇用のポイントなどについての講義を行いました。

○不当要求行為への対応
神戸湊川法律事務所 弁護士 藤掛 昂平 氏

○建設業における外国人従業員受入れのポイント
～技能実習生・特定技能外国人の特徴と不法就労防止のために～
ブリック労働法務事務所代表 特定社会保険労務士 橋本 裕介 氏



広報委員会

広報誌「ゆう和」 令和7年2月に「ゆう和」冬号(2025WINTER)を600部発刊しました。

未来ビジョン委員会

昨年度に引き続き兵庫県立ものづくり大学校と連携して、ものづくり大学校「住宅設備コース」訓練生を対象に次の事業を実施しました。

今年度新たにポリテクセンターにおいて会社説明会を開催しました。

出張講座

令和6年6月4日(火)～5日(水)

配管コンテスト

令和6年6月13日(木)

会社説明会

令和6年9月13日(金)



ポリテクセンター兵庫

令和6年9月25日(水)

ポリテクセンター加古川

令和7年2月5日(水)



3.社会貢献活動等

イベント会場での活動

令和6年11月9日(土)

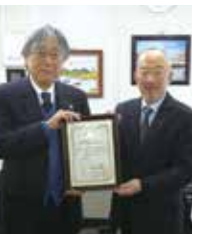
但馬地域会員企業9社9名が、「但馬まるごと感動市」の会場(イオン和田山店)において、ゴミの回収、清掃活動を行いました。



チャリティ募金

令和6年12月20日(金)

原田会長が公益財団法人兵庫県青少年本部を訪れ、チャリティ親睦ゴルフ大会で集まった募金(112,000円)を上田理事長に手渡しました。本部からは、青少年本部長である齋藤兵庫県知事の感謝状をいただきました。



令和6年度 インターンシップ受入		会員企業8社が2つの工業高校から20名の高校生をインターンシップ(就業体験学習)として受け入れました。	
	日程	受入人数	受入企業
県立兵庫工業高校	令和6年 11月11日(月)～15日(金) (株)長村商会:令和6年11月11日(月)～13日(水))	機械工学科 18名	邦設備工業(株) 2人 三神工業(株) 2人 (株)スイカン 2人 住田建設(株) 3人 (株)成友 1人 (株)西尾設備 2人 (株)長村商会 3人 モンノ(株) 3人
県立尼崎工業高校	令和6年 11月11日(月)～15日(金)	建築科 2名	住田建設(株) 2人

